

目黒稲門会会報



(題字：眞仁田 勉 初代会長)

第31号 2006年6月

発行人：加藤 栄護 編集長：外岡 明 事務局長：吉田 博行
事務局：〒153-0053 目黒区五本木2-47-5 Tel 03-3713-2096

2006 年度定時総会開催のご案内

第7回目黒稲門会定時総会を7月1日(土)下記の通り開催します。総会では、前年度の事業報告、決算及び監査報告、役員の改選と新役員の選出、平成18年度事業計画と予算案等重要事項の審議が予定されております。

総会に続き恒例の懇親会が行なわれます。回を重ねる毎に盛会となり親睦の輪が広がっております。会員並びにご家族の皆様には引続き奮ってご参加願うと共に、特に年会費をご負担されながら、これ迄いづれの会合にもご出席されなかった会員の皆様には積極的に参加されるチャンスです。わいわい騒いで仲間を作り楽しい話題の輪に入して下さい。

次にいろいろな趣味の部会活動にも参加して下さい。ご自身で部を立ち上げることも可能です。同じ趣味の方はきっと大勢居るはずです。先ずは目黒稲門会の総会に出席して下さい。

なお、今回は“早稲田ちんどん研究会”の現役学生による特別演奏を予定しております。ちんどんちんどんの“ちんどんや”に“南京玉簾”、あの懐かしい日本の伝統的大道芸を目の当りにしながら、美味しい酒を酌み交わせることと思います。

日時 2006年7月1日(土)

受付開始 15時30分

総会・懇親会 16時～19時

会場 こまばエミナース

目黒区大橋2-19-5

電話 03-3485-1411(代)

交通 井の頭線 駒場東大前駅

(下北沢寄改札口 徒歩7分)

会費 8,000円(同伴家族5,000円)

当日会場受付にてお支払下さい。当日キャンセルの方は会費をご負担願います。

送迎 こまばエミナースのマイクロバスを運行しますのでご利用下さい。

①目黒駅付近 15時10分発(目黒通り・ミツホ銀行前付近)

②中目黒駅付近 15時20分発(山手通り・ツタヤ前付近)

☆同封の返信用葉書を6月10日までにご返送下さい。なお、送迎バスご利用の方は利用番号(①又は②)を明記して下さい。

(島田 記)

『早稲田大学校友会東京都23区支部大会』

大隈講堂・ガーデンハウスで盛大に開催！！

3月22日18時、大学南門に満開になった寒桜の歓迎を受け、大隈講堂に400名を越す校友が各区稲門会より集まり、第一部講演会が盛大に開催されました。

講演『日本の外交と経済』。お忙しい中を23区のために時間をお作り下さった、早稲田大学特命教授『大隈塾』塾頭、田原総一郎先生の講演は、普段聞くことの出来ない、同じ早稲田の校友としての和やかで、しかも有意義なお話が満載。楽しかった、面白かった、と多くのご意見を頂き大好評でした。

続く早稲田大学交響楽団の演奏。総勢80名程の学生さんの大編成で、大隈講堂のステージが狭く感じられる程の大迫力でした。ドイツを中心に3カ国10都市を巡り、1ヶ月のヨーロッパ公演を終えての成果に聴衆もしばし聴き惚れた感動のひと時でした。



田原総一郎氏↑



白井克彦総長→



その後、第二部懇親会が大隈ガーデンハウスで開催されました。こちらにも330名程の方が参加され、白井総長より盛んな支部大会へのお祝いのお言葉を頂き、早稲田大学創立125周年記念募金が、大久保支部長より白井総長に贈呈されました。

大学及び近県支部からの来賓の方々と交えての歓談の中に、稲門祭で大評判の和服姿の女子学生4名の入場です。3日後に卒業式を控えた「ちんどん研究会」の4年生2名は最後のステージ。その大熱演に、会場全体大いに盛り上がりました。

そして応援部OBの指揮による校歌斉唱に肩を組み、「都の西北」の大合唱が早稲田の杜に響きました。



23区支部担当 大竹 一子

新入会員



二反田一也氏

昭和33年 理工 趣味 盆栽・登山

目黒区に住みながら灯台下暗しの感ありこれを機会に地元との交流を深めたい。



蠣崎利郎氏

昭和43年 理工 趣味 ハイキング・囲碁

別の世界の友人との交わりを深めたい想いの折に入会勧誘を受けた。これからが楽しみ。

リレー随筆

GNP

大野利幸（昭和35年 理工）

GNPは一般常識では国民総生産のことだが、私はこれを元気・長生き・ボックリと読替えて皆に勤めている。認知症になったり、足が弱くなって転んで寝たきりにならないためにはある程度の努力が必要である。自分はどうか、実生活の反省も含め書いてみたいと思う。

ある新聞に「ボケ予防に効果が期待できる生活習慣や趣味」として7項目を掲げていた。1～3は「散歩を日課にする」、「日記をつける」、「恋愛をする」であった。散歩はとくに日課にはしていないが、日常それ程遠方でなければ、車を使わず歩くようにしている。

リタイアしてから数年間は、会社の同期の連中とウォーキングを行った、これは、行った所を記録しており、歩いた歩数や経路が表にして残してある。5年間ぐらいで、158回で記録が途切れている。1回当たり16000～23000歩で世間話をしながらゆっくりのときもあるし、早足のときもあるといった具合である。

「日記」については、今年になって始めてみたが、毎日きちんと寝る前にと思っているが、うまくいっていない。今日のこと、昨日のことを思い出すだけでも脳の活性化に役立つと思っている。

3項目は飛ばして、4項目は「料理を作る」です。私は以前男の料理教室に2年間通ったことが有り、レシピがあれば、凡そのものは出来るつもりである。いわしの手びらきや、ごぼうの笹搔き等お手の物である。よく作る料理は、鰯のムニエル、牛肉の柳川風、肉じゃが等で、クリームコロッケは手間が掛かるので滅多に作らないが、家の中では評判が良かった方だ。

5項目は「旅行の計画を立てる」である。ウォーキングで行ったところでも、半分はその駅に降りるのが始めてで、新しい経験である。どうせなら外国旅行のほうがもっと刺激になると、年に1回ぐらいは思っているが、時間とお金の都合がうまくいっていない状態である。目黒稲門会の旅行部会に期待している。

6項目は「社交ダンスをする」である。ダンス部会3年で少し踊れるようになったと思う。折角なので、他所のサークルに夫婦で加入して続けているが、私が一番下手でステップを覚えるのに四苦八苦している。

7項目は「囲碁・将棋・マージャンをする」である。囲碁ぐらいはやっても良いとは思っているが、今のところ他のことで手一杯という状態である。

まだ、いろいろあるが、目黒稲門会の各部会に積極的に参加し、スケジュールが一杯になっている状態はGNPに一番良いと思っている。

特別寄稿

宙を浮遊した日

永井純一郎（昭和31年 政経）

私には、二度宙に浮いた経験があります。そしてそれは二度ともワセダでの出来事なんです。初めは昭和27年2月、東門脇の空地に立つ掲示板に張り出した一枚の紙に書かれた或る数字が片目の端に入ったその時に起りました。そう、自分の受験番号だとわかった途端、体がふっと軽くなったなと感じたらピョンと跳び上がっていたのです。この時の跳び上がりは、一瞬の動きだったと憶えています。人間、嬉しさの表現の究極が跳び上がりだそうで、辞典には、「欣喜雀躍～喜びの気持ちを押さえることができずこおどきすること」とあります。なにしろ背水の陣を敷いてこの大学のみに挑んだので、失敗は許されなかったのです。

旧制中学1年の夏、軍国少年の憧れの的“海兵”が消滅、一時目標を失って茫然自失…ところが、そこは未だ子供、進駐軍がチョコレートとジャズ、そしてベースボールを持って来ると、その全部にハマってしまい、一年足らずの間に筋金入りの野球小僧になっちゃった…。で、21年春復活最初の六大学リーグ戦、当時東大生だった従兄と後楽園で早東戦を観戦しましたが、東大の応援席で私一人、Wを応援していました。そんなことで、中学3年時には既に新しい目標“早稲田大学”を設定していたのです。

さて、二度目の浮遊は、卒業も間近になった昭和30年10月、舞台は神宮球場一塁側スタンド学生席、秋季リーグ早明二回戦でのこと。当時の六大学は実力・人気共にアマチュア野球の最高峰に君臨していました。勿論盟主はWASEDAです。在学中の八季に限っても、優勝はW3、M3、K1、R1で、戦後ずっと王座を分け合ってきた慶応が落ち目に、代って明治が島岡御大の監督就任と同時に秋山／土井の入学で台頭して来た時期に当ります。今と違って世間の関心も非常に高く、早慶戦の物凄さは格別としても、この時期の早明戦の両校応援の激しさはいつ大乱斗になっても不思議はない程殺気を孕んだものでした。問題の試合も息苦しい程の大接戦で、明一点リードのまま愈々大詰め九回裏早の攻撃、一人走者をおいて中軸を迎えるも、明秋山懸命の投球に森倒れ二死、最後の打者松岡が打席に、早応援団の嵐の様な声援を背に、松岡が打つ、右翼への平凡な邪飛、万事休す、負けた、大きな溜息…と、その時大歓声、何と明のライトが落球したのだ！命拾いして心理的に優位に立った松岡、気落ちした秋山の投球を強振すると今度はライナー性の大飛球、必死にバックする明のレフトの頭上を越し左翼席

へ、“地獄から天国へ”、“大ドンデン返し”、大先輩河合君次選手以来の逆転サヨナラ本塁打だ、勝ったんだ！！この瞬間に跳び上がったのだ。前後左右、近くの学友全部が「狂気乱舞、手の舞い足の踏む処を知らず」であった。私はこの時はピョンでは済まず暫くは浮遊していたと今でも思っています。そしてこれ以後50年、宙に浮いたことはありません。

因にこの同期のヒーロー松岡選手こそ、現目黒稲門会幹事の松岡雅俊氏であります。

会員の広場

一心のふるさと一

田中三郎（昭和25年 商）

大学は星の数ほどありますが、ハウスワインならぬ「ハウスライス」は早稲田だけでしょう。

「ワセダにはコメがある」 「それがドウシシャ」

「うちの大学のイメージじゃないね」

「そんなものミたくもないよ」

「農業はこちらが専門、ノー大」

だからW米は市販しても校友だけしか売れません。

* * *

田の字は四角なのに、大隈庭園の田圃はハートの型です。「心のふるさと」だからとは学生の発想です。

早稲田という地名が新潟にもあり、ここは全国一の米処一魚沼と並び新潟コシヒカリの名産地です。

この苗が大隈庭園に運ばれ、田植えや稲刈りに総長が率先参加して、新たな年中行事になりました。

* * *

早稲田を食べていると、学生時代の懐かしい思い出が、ご飯の湯気の向こうに不思議と浮かぶんだよーと伺いました。全国50万校友の郷愁は、皆さま「同じ釜の飯」の仲間だからなのです。目黒稲門会も125周年に寄付をされているように、早稲田米も募金支援商品なのです。

* * *

新潟の早稲田は豪雪地帯、ブナの原生林からの雪解けの清流が、いい米と越後の銘酒を生み出します。私は田中ですが、全国の地名・人名には「田」の字が多いです。山・岡・野・川・黒・青・松・杉・高・太・福・吉田さんなどーお米は日本の文化です。

* * *

大隈庭園の早稲田米の収量は僅か7キロに過ぎませんが、新潟の早稲田米が校友の目黒のお宅に届けられるのをお待ちしております。

各 部 会 か ら の 報 告 ・ 案 内

新しくウォーキング部会 スタート！

(鎌倉花散歩の会)

—— 部会員募集中 ——

古都鎌倉の寺社巡りや森林浴をしながら、同好の方々と一緒に四季の花々を観て歩きませんか。

<活動概要>

- ・ 当分の間、鎌倉の花中心のウォーキング(散歩)
- ・ 集合は現地集合、時間は定例午後1時
- ・ 開催は現地小雨決行とし、降雨中止→延期の場合は電話網を通じ登録部会員に連絡
- ・ 費用はすべて各自負担
- ・ 携行品：健康保険証、歩数計(自由)

* 入会申込は、桑野まで。

(TEL/FAX 5729-1805)

4 / 7 現在 登録部会員 16 名

<6月～9月開催予定>

開催日 集合場所(主な花々とコース)

6/17(土) 北鎌倉駅(アジサイ、ハナショウブ)

円覚寺・東慶寺・明月院・八幡宮・安国論寺他

8/23(水) 鎌倉駅東口(サルズベリ、フヨウ他)

宝戒寺・妙隆寺・本覚寺・本興寺・実相寺他

9/22(金) 北鎌倉駅(ハギ、ヒガンバナ・コスモス)

東慶寺・浄智寺・浄光明寺・海蔵寺・英勝寺・寿福寺他

部会長 桑野祐光

囲碁部会

早稲田の卒業生は50万人で、そのうち囲碁を打つ人は1万5千人程度といわれています。

オール早稲田囲碁祭は、同実行委員会が主催し、早稲田大学校友会の事業委員会に属し、ただ単なる囲碁好きの親睦会とは明確に違う立場を主張しています。

将来、全国 全世界の校友も参加出来る早稲田囲碁ネットの構築を準備 実行しつつあります。

(1) 今後の日程

平成18年 5月19日(金) 場所(下目黒住区センター)
6月 2日(金) 時間(午後1時～5時)
7月 7日(金)

(2) 第6回オール早稲田囲碁祭

平成18年6月10日(土) 日本棋院市ヶ谷本院

部会長 保井 正

カラオケ部会

17年度最後のカラオケ当日(H18.3.10)空模様が心配になっていたが、生憎と泣出してしまった。

サア出足が?・・・杞憂に過ぎず、早々と16名の参加を得、申し込みの山、3時間の時間内では歌いきれぬと、早速1時間延長を申し入れ、何とか全曲完了して、同期の桜の合唱で締め括る事が出来ました。

コートダジュールに移転16年10月より始め、最低5名と不安を感じたが、12名平均と順調に流れを掴み、18年度に繋げることが出来ました。

部会の皆様有難う。今後ともご協力願ひあげます。

18年度も原則 第2金曜日16時～19時迄開催



部会長 海口昭治

麻雀部会

(1) 第25回定例麻雀大会

2月19日(日)12:30より武蔵小山の麻雀クラブ〈サン〉に於いて本年第一回の麻雀大会を開催しました。今回は昨年後半稲門会に入会されたばかりの中村知明氏の初参加もあり16人(4卓)で腕を競い合いました。和気藹々の競技の結果、優勝は鈴木、準優勝は松田、三位は本田の各氏でした。

(2) 今後の大会予定

三区連合親善麻雀大会(渋谷・世田谷)が、渋谷稲門会の主催により4月22日(土)渋谷スリーハンドレッドに於いて開催しました。

次回の定例麻雀大会は6月4日(日)武蔵小山の〈サン〉を予定しています。

(3) 会員募集

麻雀は最近、脳の活性化やストレス解消に役立つゲームとして見直されております。当稲門会に新しく入会される方も増えておりますが、麻雀に興味のある会員の新規加入を歓迎いたします。是非ご連絡ください。

部会長 松尾洋一

美術・歴史鑑賞部会

第11回美術・歴史鑑賞部会は、3月11日(土)に港区青山の根津美術館で開催中の「虎屋の雛人形と雛道具展」を鑑賞しました。

参加者は加藤会長夫妻をはじめ総勢25名。展示品は赤坂の虎屋が所蔵する雛人形・雛道具類で、いずれも江戸時代の職人の心意気を示す精緻な作品がそろい、見ごたえのあるものでした。鑑賞後は美術館の庭園を散策し優雅な時間をすごしました。

(参加者氏名 敬称略)

加藤榮護ご夫妻 外岡明ご夫妻 渡邊三郎ご夫妻
市瀬達夫ご夫妻 林田雅敏ご夫妻 保井正ご夫妻
木村昭一ご夫妻 小野満ご夫妻 服部尚彦ご夫妻
杉浦京子 杉田則弘 川井信義 桑野順子 桑野聖子
須田みどり 原嶋律子 八幡和三郎



部会長 八幡和三郎

三土会

写真の様に賑やかな集まりです。

気楽にご参加下さい。

日時：毎月第3金曜日午後6時より

会場：「松喜」

住所：目黒区下目黒2-20-23 第一高田ビル2F

電話 03-3490-7060

会費：4,000円



世話人 土川 俊雄

寄稿

「第1回アジアESCO国際会議」に参加して

中上美代子(昭和61 文)

(幹事 編集委員)

2005年10月20日と21日の2日間、タイのバンコクにて「アジアESCO国際会議」が行われ、オブザーバーとして参加する機会を得た。

ESCOとは“Energy Service Company”の略である。

ESCO即ちESCO事業は、欧米では約10年前から実施されているもので、企業が企業などに省エネルギーに関する包括的なサービスを提供し、一定の省エネルギー効果を保証するというエネルギーサービスである。

つまり、顧客である企業が省エネルギーを実践することによって得る利益に貢献し、なおかつ「地球環境の保全」に寄与するという日本では最新のビジネスである。

ESCO事業自体はアメリカが先進国であるが、今回、日本がイニシャティブをとり、初めてアジア中心で本格的な国際会議を実施したことは、全世界的な大きな問題である「地球環境保全」の観点から大きな意義がある。

昨年の夏から政府が率先して打ち出した「クールビズ」やら、各家庭での「待機電力OFF」など、個人が省エネルギー意識をもち、それに努めることは勿論大切なことであるが、業務分野、産業分野が温暖化対策を推進することが、いかに必要かということは衆目の一致するところで、その中心的役割を担うことをビジネスとしたところがESCOの存在価値を高めていることは事実である。

ビル、オフィス、マンション、病院などあらゆる分野が、ESCO導入で省エネ効果が上がり、結果的に利益を得る企業が増えることは、国家の省エネ対策の重要な柱になる。

今回の「第1回アジアESCO国際会議」には、日本からは経済産業省をはじめ、さまざまな企業が参加し、世界18ヶ国から、全48件の研究発表があり、日本からも9件の発表があった。

日本 タイ 中国 韓国 台湾 インド 欧米 オーストラリアなどから専門家が一同に集結し、ESCO事業の最新情報が得られたわけである。

2005年度から、京都議定書発効しており、このように「地球温暖化防止対策」「全地球的な省エネ対策」が多く国の参加によって討議されたことは、画期的なことである。

地球規模で拡大する温暖化は今世紀最大の課題であり、新しいビジネスとして、急速に成長し発展しているE S C Oの役割はますます重視されるであろう。

省エネルギー対策として、製造業などが省エネ製品の開発をしたり、個々が省エネ意識を持つことは当然のことながら、E S C Oはそれとは別の切り口で、省エネルギーをビジネス化しているゆえに、その実行力を高め、社会に多大な貢献をしている。新しい概念のビジネスであるということは称賛に値するものであり、世界中で、どんどん普及すべきビジネスであることは間違いない。

地球温暖化対策は一国の問題ではなく、地球規模の問題であり、その対策をグローバルに考えることは、当然必至のことである。

日本の省エネルギー対策のレベルは、多方面でこれ以上できないというほど世界一であるが、ことは一国だけの問題では済まないのが「地球温暖化」の難解さである。

今後、エネルギー消費が雪崩のように増えつづける中国やインドをはじめとするアジアでは、圧倒されそうなエネルギー消費で大量のCO₂の排出がもたらされ「地球温暖化」の脅威はさらに高まる。

これにいかにか立ち向かうのか、省エネルギー化を推進することは地球上の喫緊の課題である。

「ストップ・ザ・地球温暖化」は、考えるに余りにも大きな大きな国際問題であり、E S C Oの拡大の必要性を意識しなければならない時代であることは確かである。



〔空 往 満 帰〕

— 外岡茂十郎の軌跡 (⑨ 最終回) —

外 岡 明 (昭和26年 理工 電)

⑪ 歩んできた道

⑪-1 家庭人として：

大正8年に結婚し、一男二女をもうけたが、昭和12年18才になった長男「茂」を失った。

茂は、早稲田中学五年生で高校受験目前に、腸チブスに罹り、僅か20日間の入院で早世してしまった。その悲嘆は、想像に難くないが、それからは、なお一層、家族・家庭の絆を大切にしていたようだ。そして学生野球に情熱を傾けていったのも、一途に練習に打ち込む選手の姿の上に、受験勉強に打ち込んでいた同年輩の息子の姿を重ね合わせていたのではなかろうか。

昭和24年長女「玲子」が「長島藤夫」(昭和24年・法)と結婚、二女をもうける。

昭和29年「長尾明」(私)と養子縁組する。「明」は同戸籍の次女「ルリ子」と結婚、二男をもうける。

⑪-2 学生野球人として：

昭和10年 専門部野球部長となってから、昭和57年日本学生野球協会 審査室長を辞任するまで、学生野球に携わることに実に47年の長きに亘った。

そして昭和57年「野球殿堂入り」に加えられた。

天野貞祐先生(明治45年京大卒・文化功労者・文部大臣)は、「フェアプレー」(⑩に記載)の序文を次の様に結ばれている。

『…何が一体、外岡博士をして、かくの如き愛と情熱とを野球に対して抱かせたのであろうか。

思うに、それは博士が一個の法学者として、公正の精神に無限の憧れを感じ、その精神の実現と育成とを野球に見出すことに、その根源が成立するのではないだろうか…』と。

⑪-3 学問の人として：

野球の遠征に同行した折りや、依頼されて地方で講演をした時に、しばしば『外岡先生は野球の先生かと思っていたら、法律のことも知っているのですね』と云われるらしい。帰宅すると「また言われちゃったよ〜」と ニコニコしながら話すのであった。それは決して不満そうでも、迷惑そうでもなく、純粹に心から嬉しそうであり、楽しそうであった。

これは恐らく、自分の専門分野について、それだけの自信と自負を持っていたからでは無いかと思う。

大正14年27歳で法学部教授に任じられると、その翌年「親族法概論」、引続いて「相続法概論」の初版を刊行した。この本は当時、穂積重遠先生(1883～1951 民法学者 大正5年東大教授)から非常にお褒めを頂いたようで、後に「この書の手法を高く評価し、ご自著「親族法」の序文にて、大いにそれを参考にした旨を述べておられる」(- 中村宗雄教授-) との事である。

また昭和48年「明治前期家族法資料」全三巻を刊行したが、これが評価され、翌49年《学問の進歩に著しく貢献した》として日本学士院賞を受賞した。これは、学者としての外岡にとって最高の榮譽であった。

《この「明治前期家族法資料」は、『旧明治民法施行以前の 無法典時代の家族法について7000余の布告・指令などを収集・整理し、初めて網羅的に探索したもの』(早稲田ウイークリー)で、昭和34年から約15年かけて整理、編纂した(法学部の中村吉三郎・高野竹三郎・佐々木宏の三教授の協力による)全三巻7冊(別に補遺・索引4冊)5000頁のもので、日本の家族法の夜明けをどのように捉えるかという意味で大変貴重な業績となった》

当時、中川善之助先生(1897～1975 東北大学名誉教授・昭42年 金沢大学学長)は、法学セミナーに次のような書評を書いておられる。

『読み来たり、読み去れば、まことに全巻一つの読み物であり、明治前期夜明け前の社会が、彷彿として絵の様に浮かんでくる』と。

⑱ 結 び

人生において、最も油に乗って活躍の出来る40～60才台を、法律学の教育者として教室で学生と身近に接し、同時に野球部長として野球選手と行動を共にしながら、その野球を通して日常生活を反省し、さらには学生野球のフェア・プレーから教訓を受け、それを学校教育の中で学生に戻すという相互作用の中から、大変幸福な満ち足りた人生を歩んだのではないかと思います。

晩年、学生野球に情熱を注ぎ込んだ者としては、野球殿堂入りの栄に浴し、また民法学者としては、榮譽ある日本学士院賞を授与されるなど、数々のお褒めを頂きました。

往時、初めて野球部の関西遠征に同行したときに実感したと、日記帳に記した『空往満帰』という空海のこの言葉は、外岡の88年の人生を通して、尚云えるのではないかと思います。

追記として、昭和43年 早稲田大学を定年退職するに当たり、『早稲田キャンパス』(43.3.10号)に寄

稿した「講義と私」と題する感謝の言葉を紹介して、筆を擱きます。

『私が早大附属高等学院講師になったのが大正10年4月でありますから、正に47ヶ年、早稲田にお世話になったわけであります。この47ヶ年という声を聞かたびに思い出されるのが、中学時分に漢文で習った「山高きが故に貴からず、樹有るをもって貴しとなす」という言葉であります。

振り返ってみれば、碌々として碌を食んだもので、まことに慙愧に堪えないものがあります。しかし、講義するよりほかに取り柄のない私だけに、この道一筋をまっしぐらに歩み続けてきました。

……中略…… 私は、結婚とか、夫婦とか、親子とか、扶養とか、相続とかいったような、家族法上の生きた問題を、学生と一緒に論議していくうちに、法律的な考え方なり結論なりが、各人の頭の中に静かに浮かび上がってくる、というやり方を好んで取り入れました。また、学生の発言を易くするために、できるだけ平易な言葉で問答する様にしました。それは法律学を通俗に向かつて墮落させるのではなくして、むしろ通俗の仮面に隠れながら、学生を知らず識らずのうちに法律学の殿堂に引き入れようというのであります。私の非力をもってしては到底及びがたいことではありましようが、私は、狙いだけは常にそこにおいて、講義を進めて行きました。

こうした雰囲気の中で、若い学生と語り合う楽しさを味わい続けているうちに、定年退職することになったのですから、私にとっては、まことに恵まれた教壇生活でありました。この点で、早稲田大学と私の講義を聴いてくれた、何万という学生諸君とに心からお礼を申し上げなくてはならないと思っております。

もっとも、学生諸君と楽しい講義を続けていくためには、私は私なりに、講義のための資料蒐集と講義のための研究に、日ごろ絶えず大きな時間を割きました。私の場合は、研究のための資料収集というよりは、講義のための資料蒐集であり研究であったのであります。毎年毎年同じ講義の蒸し返しということでは、講義する私にも、知らず識らず熱気が欠けてくるようになり、心の琴線にも強く触れることができない、と考えたからであります。

講義のための学究生活、これが私の47ヶ年にわたる早稲田の生活でありました。来る年も来る年も、新来の学生諸君を迎えて、楽しい講義の連続でありました。教員として悔いのない、早稲田の生活でありました。私は、こうした生活のできたことに、無上の喜びを胸に懷いて、早稲田を去ることができます。

まことに有難い限りと感謝しております。』

- 完 -

グルメ部会 ー急 告ー

涼風東京湾クルージングと納涼ビアパーティ開催を急遽決定しましたので、ご案内します。

日時：平成 18 年 8 月 9 日（水）

①東京湾クルージング 午後 3.00 ～ 4.30

集合 午後2.30 場所 竹芝小型船ターミナル

②納涼ビアパーティー 午後 5.30 ～ 7.30

場所 恵比寿ガーデンプレイス

ビヤステーション恵比寿

なお、参加ご希望の方は同封の参加申込書にてFax
又は電話で申込み下さい。

部会長 海沼美智子

皆様のご寄稿をお待ちしています。

「部会参加感想」・「エッセイ」・「紀行文」・「珍しい話」
「耳よりな話」・「思い出話」・「体験談」・「好奇心を煽る話」・「話題になる話」などなど何でも結構です。
どうぞ気軽にお寄せ下さい。

字数：○「会員の広場」400 字～ 800 字 程度

○「特別寄稿」 1000 字～ 1500 字 程度

様式：パソコンでeメール「添付」

又はプリント、手書き

（何れも、横 23 字で行替え願います。）

原稿締切日：7/8、10/7、07 年 1/6、4/7 です。

送り先：表題に記載の事務局（吉田博行）宛

e メール：gf-tono@d01.itscom.net（外岡）宛

部会案内一覧

詳細は本誌の各部会報告をご覧いただき、興味をお持ちの部会にお気軽にご連絡下さい

平成 18 年 5 月現在

部会名	部会長 担当幹事	連絡先 電話 /Fax	参加人数	当日会費 (年会費ナシ)	活動概要
囲 碁	保井 正		10 数名	500 円	毎月 1 回（下目黒住区センター）
カラオケ	海口昭治		10 数名	3,000 円 女性 1,000 円	毎月 第二金曜 午後 4 ～ 7 時 （コートダジュール学芸大学店 B1）
グルメ	海沼美智子		20 ～ 30 名	6,000 円～ 10,000 円	年3回程度 リーズナブルな金額 と雰囲気・味の良い店を厳選
ゴルフ	大野利幸		20 ～ 30 名	25,000 円程度	年2回 春秋 目黒通りバスで送迎 別途 秋に総長杯
ウォーキング	桑野祐光		20 ～ 30 名	なし(各自負担)	シーズン中は毎月 1 回程度
麻雀	松尾洋一		10 数名	3,000 円	年4回 武蔵小山「サン」 他区 稲門会との連合親睦大会(年3回)
美術・歴史鑑賞	八幡和三郎		10 数名	その都度	年数回
旅行	井村正陽		10 ～ 20 名	その都度	年 2 回 春秋
ユース 23	石川智子		数名	5,000 円	年数回 土曜夜 若手・準若手
三土会（※）	土川俊雄		10 ～ 15 名	5,000 円	毎月 第三土曜 午後 6 ～ 9 時
広報 HP	中西千可子	e メール URL	meguro@tomonkai@nifty.com http://homepage3.nifty.com/mc96tomon-wasda/		

（※）三土会は当面の間、毎月 第3金曜日 午後 6 時～ 9 時とします。

編集後記

前号では、大変な校正ミスをやってしまいました。
ある部会に参加者された方のお名前の誤植を見落としてしまったのです。

早速ご当人にお詫び申し上げました所、特段のお咎めも無くご容赦下さいました。有難うございました。
人名には、特に神経を使って校正チェックをしているのですが…。勘違い、思い込みの怖さを痛感致しました。

百科事典から、歴史上 最悪の校正ミスの記事を見付けました。

それは、「旧約聖書」にある 有名な「モーゼの十戒」の第七戒 『Thou shalt not convict adultery』
《なんじ姦淫するなかれ》の『not』が脱落したのを見落としてしまい、《なんじ姦淫せよ》とミスプリントされたものとありました。

結果は膨大な量の聖書が焼き捨てられ、印刷者は罰せられた由です。

校正には、今後とも一層留意いたします。（外岡 記）